国　語

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
現代の国語	２単位	普通科	１年

教 科 書	高等学校　改訂版　標準　現代の国語（第一学習社）	副 教 材	新総合　図説国語（東京書籍）

科目の目標	(1)　実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 (2)　論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3)　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
１学期	視野を広げる　「枠を壊して自由に生きる」 自分の立場を明確にする　「言葉遣いとアイデンティティ」 根拠を示す　「水の東西」 視野を広げる　「読書の効用について、自分の考えを発表しよう」	・評論文の特性を理解する。 ・話題と主張を意識して読解する力を身に付ける。
２学期	論理的に考える　「私たちはなぜ承認を求めるのか」 情報を読み取る　「数量化のジレンマ」 伝えたいことを明確にする　「言語としてのピクトグラム」 考えを深める　「人はなぜ仕事をするのか」	・話の構成を練る力を身に付ける。 ・文章の展開と筆者の論理を捉える力を身に付ける。
３学期	社会に目を向ける　「黄色い花束」 根拠を示す　「地域の魅力を伝える紹介文を書く」 考えを深める　「筆者の問いに対する考えをグループで話し合う」	・情報を適切に読み取り、言語情報として適切にまとめる力を身に付ける。
備考（学習のポイント）	1　復習を必ず行うこと。ノートを見ながら今日の授業を頭の中で再現すること。 2　国語の学習において、要約と説明は鍵である。文章の要点を説明し、また本文を要約して、学習内容の定着を図ること。 3　知らないことは考えられない。積極的に読書し、自分の知見を広げること。	

評価規準	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能、中でも実社会に出て必要となる基礎的な語彙（漢字の読み・書きを含む）を獲得できているか。
	思考・判断・表現	文章の論理を意識し、論理的に考え、他者との関わりの中で論理的に伝え合う力を高めることができているか。
	主体的に学習に取り組む態度	積極的に授業に参加し、学習内容に対して進んで自らの考えを深めたり、広げたりしているか。

定　期　考　査	１学期中間	１学期末	２学期中間	２学期末	学年末
実　施　予　定	○	○	○	○	○

評　価　方　法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。 ○　定期考査　…　Ⅰ・Ⅱ　の観点 ○　ノート内容　…　Ⅱ・Ⅲ　の観点 ○　授業成果物（レポート、感想文、提出物等）　…　Ⅱ・Ⅲ　の観点 ○　授業態度（真面目な態度、積極的な取組）　…　Ⅲ　の観点

国　語

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
言語文化	２単位	普通科	１年

教 科 書	高等学校　改訂版　標準　言語文化（第一学習社）	副 教 材	新総合　図説国語（東京書籍）

科目の目標	⑴　生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ⑵　論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ⑶　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	学　習　項　目		学 習 の ね ら い
１学期	古文入門 漢文入門 詩の楽しみ	「古文の学習」「児のそら寝」 「漢文の学習」「訓読に親しむ（一）」 「訓読に親しむ（二）」「訓読に親しむ（三）」 「道程」「二十億光年の孤独」	日本の言語や文化に興味を持ち、自身のものの見方を広げる。
２学期	小説を読む（二） 古文に親しむ 史伝を読む 漢詩の鑑賞	「羅生門」 「絵仏師良秀」 「鶏口牛後」 「春暁」	表現方法を読み取り、想像力を磨く。また、作品のテーマを捉え、自らの課題として考える。
３学期	短歌と俳句 中国の思想	「ゆびさきの温かみを」 「細胞の全部が私」 「論語」	自身の言語に深い関心を持つ。また、作品のテーマを考察する力を養う。
備考（学習のポイント）	１　復習を必ず行うこと。ノートを見ながら今日の授業を頭の中で再現すること。 ２　文章の要点を説明し、また本文を要約して、学習内容の定着を図ること。 ３　積極的に読書し、自分の知見を広げること。時間がある時は国語便覧を積極的に読むとよい。		

評価規準	知識・技能	基礎的な文法事項や語彙、表現方法などが身に付いている。また、文章の構成や展開を理解し、多角的に物事を考え、適切に書いたり話したりできる。
	思考・判断・表現	身に付けた知識・技術を生かし、複数の視点から自分の考えを確立できる。また、自分の想いや考えを深く見つめ直し、表現を豊かにして効果的に自分の想いや考えを伝えることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら言語文化に関心を持ち、意欲的に調べたり学習したりすることができる。また、言葉を通して他者や社会と積極的に関わろうとする態度で、話したり聞いたりする活動ができる。

定　期　考　査	１学期中間	１学期末	２学期中間	２学期末	学年末
実　施　予　定	○	○	○	○	○

評　価　方　法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下の通り。 ○　定期考査　…　Ⅰ・Ⅱ　の観点 ○　ノート内容　…　Ⅱ・Ⅲ　の観点 ○　授業成果物（レポート、感想文、提出物等）　…　Ⅱ・Ⅲ　の観点 ○　授業態度（真面目な態度、積極的な取組）　…　Ⅲ　の観点

地理歴史

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
地理総合	２単位	普通科	１年

教 科 書	高等学校新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院）	副 教 材	新編地理資料（東京法令出版）

科目の目標	地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、国際社会に主体的に生きる資質・能力を養う。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
１学期	地図でとらえる現代世界 １　地図と地理情報システム ２　結びつきを深める現代世界 国際理解と国際協力 １　生活文化の多様性と国際理解	・地図や地理情報システムを用い、目的や用途について考察する。 ・自他の文化を尊重し、国際理解を図ることの重要性について理解する。
２学期	１　生活文化の多様性と国際理解 ２　地球的課題と国際協力	・より良い社会の実現を視野に、国際的課題について主体的に追究する。 ・持続可能な社会づくりについて考察する。
３学期	持続可能な地域づくりと私たち １　自然環境と防災 ２　生活圏の調査と地域の展望	・世界や生活圏でみられる自然災害について、対応の重要性を理解する。 ・生活圏の地理的な課題について追究する。
備考（学習のポイント）	１　学習プリントはきちんと書き込み、積極的にメモ書きをしよう。 ２　家庭学習では、教科書・資料によく目を通して、学習の復習をしよう。 ３　地名などは地図帳を利用して、しっかりその位置を確認しよう。 ４　社会の動きに注目し、学習内容と世界の動向とを結びつけて考えよう。	

評価規準		
	知識・技能	世界の生活文化の多様性や、地理的課題を理解しているとともに、調査や資料から情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	地理的な課題の解決に向けて考察したことを、効果的に説明できる。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、地理に関わる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

定　期　考　査	１学期中間	１学期末	２学期中間	２学期末	学年末
実　施　予　定	○	○	○	○	○

評　価　方　法	定期考査、学習プリント提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○学習プリント提出（授業中の取組や家庭での復習状況） ○授業態度（意欲的な態度、発表内容） ○課題提出（ワーク作業や長期休業中の課題など） ○定期考査（考査範囲の適切かつ計画的な学習成果）

地理歴史

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
歴史総合	２単位	普通科	１年

教 科 書	明解　歴史総合（帝国書院）	副 教 材	明解歴史総合図説シンフォニア（帝国書院）

科目の目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
１学期	第１部　歴史の扉 １章　歴史と私たち　　２章　歴史の特質と資料 第２部　近代化と私たち １章　「近代化」への問い ２章　江戸時代の日本と結び付く世界 ３章　欧米諸国における近代化 ４章　産業革命による欧米とアジアの変化 ５章　日本における近代国家の形成	・事実と解釈を分けて読み取るなどの適切な読み解き方を理解する。 ・近代化が現代社会に与えた影響と課題について追究する。
２学期	６章　帝国主義の影響と日本を含めた東アジアの変化 ７章　「近代化」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えよう 第３部　国際秩序の変化や大衆化と私たち １章　「国際秩序の変化や大衆化」への問い ２章　第一次世界大戦とその影響　３章　大衆社会の形成と社会運動 ４章　揺らぐ国際秩序と日本の行方　５章　第二次世界大戦とその影響 ６章　「国際秩序の変化や大衆化」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えよう	・国際秩序が大きく変化し、大衆化が進展した時期や特徴について理解する。 ・国際秩序の変化や大衆化に関連する現代の課題について追究する。
３学期	第４部　グローバル化と私たち １章　「グローバル化」への問い ２章　冷戦で揺れる世界と日本　　３章　多極化する世界 ４章　グローバル化のなかの世界と日本 ５章　「歴史総合」を振り返り現代的な諸課題と結びつけて考えよう	・冷戦下における各国の動向が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。 ・冷戦の終結とグローバル化の進展が、現代社会に与えた影響と課題について追究する。
備考（学習のポイント）	１　学習プリントはきちんと書き込み、積極的にメモ書きをしよう。 ２　家庭学習では、教科書・資料によく目を通して、学習の予習・復習をしよう。 ３　近現代の歴史について、世界とその中の日本とを結びつけて考えよう。 ４　近現代の歴史の変化に関わる諸事象を、現代の諸課題と結びつけて考えよう。	

評価規準	知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。
	思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代とのつながりに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとするとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めようとしている。

定　期　考　査	１学期中間	１学期末	２学期中間	２学期末	学年末
実　施　予　定	○	○	○	○	○

評　価　方　法	定期考査、学習プリント提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○学習プリント提出（授業中の取組や家庭での復習状況） ○授業態度（意欲的な態度、発表内容） ○課題提出（ワーク作業や長期休業中の課題など） ○定期考査（考査範囲の適切かつ計画的な学習成果）

数　学

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
数学Ⅰ・数学A	３・２単位	普通科	１年

教 科 書	改訂版　新編数学Ⅰ(数研出版) 改訂版　新編数学A(数研出版)	副 教 材	改訂版　クリアー数学Ⅰ＋A（数研出版）

科目の目標	高校数学の基本を確実に理解するとともに、基本的な知識の習得と技能の習熟を図る。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
１学期	数学Ⅰ　第１章　数と式 式の計算　実数　１次不等式 第２章　集合と論理 第３章　２次関数 ２次関数とグラフ ２次関数の値の変化	・中学校の内容の復習から高校数学へ発展する。 ・論理的思考力を養う。 ・関数のグラフおよびグラフと方程式・不等式の関係について学ぶ。
２学期	数学A　第１章　場合の数と確率 場合の数　確率 数学Ⅰ　第４章　図形と計量 三角比　三角形への応用	・実生活における具体的な例を通して場合の数や確率を学ぶ。 ・さまざまな図形の計量法を学ぶ。
３学期	数学Ⅰ　第５章　データの分析 数学A　第２章　図形の性質 平面図形　空間図形	・データを分析し、活用する方法を学ぶ。 ・三角形や円などの基本的な図形の性質を学ぶ。
備考（学習のポイント）	１　数と式は、計算力が必要です。繰り返し演習を行い、確実に定着させましょう。 ２　集合と論理に関する分野は、考え方をしっかり身に付けましょう。 ３　２次関数のグラフが正確に描けるようにして、方程式・不等式と関数のグラフの関係について理解していきましょう。 ４　順列、組合せの意味を理解し、その総数を求めることができるようにしましょう。 ５　三角形の辺の長さや角の大きさ、面積について求められるようにしましょう。 ６　データを分析する上で扱う言葉の意味や計算方法について理解しましょう。 ７　三角形や円の性質について、理解を深めていきましょう。	

評価規準		
	知識・技能	基本的な考え方、原理、法則、用語、記号の意味を理解し、事象を数学的に解釈し、処理することができている。
	思考・判断・表現	式、図、表、グラフ等を用いて、様々な課題を数学的に捉え、数学的論拠に基づいて事象を的確に判断・表現し、考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し、問題解決において積極的に数学を活用している。

定　期　考　査	１学期中間	１学期末	２学期中間	２学期末	学年末
実　施　予　定	○○	○○	○○	○○	○○

評　価　方　法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○　ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○　授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○　小テスト（単元毎の小テストなど） ○　課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）

理　科

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
化学基礎	２単位	普通科	１年

教 科 書	改訂　新編化学基礎　（東京書籍）	副 教 材	化学基礎の徹底演習ドリル(啓林館)

科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、自然の事物・現象に対する興味・関心を高め、化学的に現象を理解しようとする能力と態度を育てると共に、基本的な原理･法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
１学期	１編　化学と人間生活 １章　化学とは何か　　２章　物質の成分と構成元素 ２編　物質の構成 １章　原子の構造と原子の周期表 ２章　化学結合	･身の回りの生活と化学の関わりを理解する。 ・原子の構造・性質について理解する ･様々な化学結合と物質との関係を理解する。
２学期	３編　物質の変化 第１章　物質量と化学反応式 第２章　酸と塩基	･化学反応式と物質量の関係を理解する。 ・酸・塩基とその量的関係を理解する。
３学期	第３章　酸化還元反応	・酸化数及び酸化・還元を理解する。 ・酸化・還元反応と量的関係を理解する。
備考（学習のポイント）	化学は身の回りにある物質についての学問です。まず、身の回りの物質が持つ様々な性質に興味を持つことが大切です。また、実験観察の結果から多くの法則を理解し学ぶことになりますから、筋道立てて物事を考える力が必要になります。普段から論理的な文章を読んだり書いたりすることも化学の学習には必要になります。	

評価規準	知識・技能	・元素記号や化学式を正しく書くことができるか。 ・正しい科学的概念をもとに用語や法則を理解しているか。 ・実験操作が正しいか。
	思考・判断・表現	・様々な化学反応を正しく予想し、説明できるか。 ・化学反応を自分の言葉で表現できるか。
	主体的に学習に取り組む態度	・化学に興味を持ち、化学的概念の理解に積極的に努めているか。 ・実験・実習が安全に行われているか。

定　期　考　査	１学期中間	１学期末	２学期中間	２学期末	学年末
実　施　予　定	○	○	○	○	○

評　価　方　法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○　ノート提出（整理状況及び工夫の確認） ○　授業態度（教科に対して真摯で積極的か。） ○　課題提出（週末課題及び長期休業中の課題）

理　科

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
生物基礎	２単位	普通科	１年

教 科 書	高等学校　改訂　生物基礎 （第一学習社）	副 教 材	標準　セミナーノート　生物基礎

科目の目標	生物とそれを取り巻く環境に対する関心を高め、自分のからだや自分の周りの環境について理解し、問題を意欲的に探究する活動を通して、規則性を発見したり課題を解決したりする方法を習得させる。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
１学期	第１章　生物の特徴 　１節　生物の共通性 　２節　生物とエネルギー 第２章　遺伝子とそのはたらき 　１節　遺伝子の本体と構造 　２節　遺伝情報とタンパク質	・生物の多様性と共通性を知る。 ・遺伝子とその働きを学ぶ。 ・遺伝子の発現について学ぶ。
２学期	第３章　ヒトのからだの調節 　１節　情報の伝達と体内環境の維持 　２節　免疫 第４章　植生と遷移 　１節　植生と遷移	・体内環境と恒常性について学ぶ。 ・ホルモン調節や免疫システムについて学ぶ。 ・植生と遷移について学ぶ。
３学期	２節　バイオーム 第５章　生態系とその保全 　１節　生態系と生物の多様性 　２節　生態系のバランスと保全	・気候とバイオームについて学ぶ。 ・生態系の物質循環、バランスと保全について学ぶ。
備考（学習のポイント）	１　生物の特徴を知り、どのような進化が起こったのか理解しよう。 ２　遺伝子の働きや体内環境を維持するしくみを学び、自分のからだの成り立ちや現象を理解しよう。 ３　言葉や現象についてよく理解し、文章で正確に表現できるようにしよう。 ４　表や図を見て、表現や理解ができるようにしよう。	

評価規準	知識・技能	・生物の内容を理解し、正しい知識で生命現象を説明することができるか。 ・顕微鏡観察や実験を、正しい手順で素早く行うことができるか。
	思考・判断・表現	・科学的知識のもとに、現象理解を行い表現することができるか。
	主体的に学習に取り組む態度	・主体的に生物に興味を持ち、内容の理解に努めているか。

定　期　考　査	１学期中間	１学期末	２学期中間	２学期末	学年末
実　施　予　定	○	○	○	○	○

評　価　方　法	定期考査、ノート提出、授業態度、実験態度等を総合的に評価する。 ○　ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○　授業態度（まじめな態度、積極的な発表、ペアワーク・グループワークの態度） ○　小テスト（確認テストなど） ○　課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）

保健体育

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
体　育	3単位	普通科	1年

教 科 書	現代高等保健体育改訂版 （大修館）	副 教 材	最新スポーツルール 2026（大修館）

科目の目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
1学期	体つくり運動、集団行動、新体力テスト、陸上競技 球技Ⅰ［個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法］ 【男子】【女子】（バレーボール） 体育理論（スポーツの始まりと変遷）（文化としてのスポーツ）	・自己の体力や生活に応じて取り組み、実生活に役立てる。 ・ペースの変化に対応するなどして走る。
2学期	体つくり運動 球技Ⅱ［個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法］ 【男子】【女子】（サッカー・バスケットボール） 体育理論（オリンピックとパラリンピックの意義）（スポーツが経済に及ぼす効果）	・作戦や状況に応じた技能や仲間と連携してゲームが展開できるようにする。
3学期	体つくり運動 球技Ⅲ［個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法］ 【男子】【女子】（バスケットボール・バレーボール） 体育理論（スポーツの高潔さとドーピング）（スポーツと環境）	・スポーツの歴史、文化的特性、現代のスポーツの発展について理解できるようにする。
備考（学習のポイント）	1　自らの特性を生かしたり、伸ばしたりする上で、能力等に応じて運動を選び、その運動を得意にしていくなどして生涯スポーツの基礎づくりをしよう。 2　集団としての行動を秩序正しく、能率的に行えるようにしよう。 3　互いに協力して自己責任を果たそう。	

評価規準	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項や生涯にわたって運動を豊かに継続するための倫理について理解しているとともに、目的に応じた技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	自己や仲間の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて、課題に応じた運動の取り組み方や目的に応じた運動の組み合わせ方を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。
	主体的に学習に取り組む態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、運動の合理的、計画的な実践に自主的に取り組もうとしている。

定　期　考　査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実　施　予　定					

評　価　方　法	授業態度、運動の技能、体育理論の理解度等を総合的に評価する。 ○　出席状況、授業態度・意欲（授業の参加状況、意欲的でまじめな態度） ○　運動の技能（各種運動の技能の習熟度、審判法の理解度） ○　体育理論の理解度（理解度の確認テスト）

保健体育

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
保　健	1単位	普通科	1年

教 科 書	現代高等保健体育改訂版（大修館）	副 教 材	現代高等保健体育ノート改訂版（大修館）

科目の目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
1学期	1単元　現代社会と健康 健康の考え方と成り立ち　　私たちの健康のすがた 生活習慣病の予防と回復　　がんの原因と予防 がんの治療と回復　　運動と健康　　食事と健康 休養・睡眠と健康　　喫煙と健康　　飲酒と健康	・健康の考え方と健康課題、生活習慣病やがんの予防、調和のとれた健康的な生活について理解する。
2学期	2単元　安全な社会生活 応急手当の意義とその基本　　日常的な応急手当 心肺蘇生法　　事故の現状と発生要因 安全な社会の形成　　交通における安全 薬物乱用と健康　　精神疾患の特徴	・心肺蘇生法や応急手当の正しい手順や方法、交通事故の防止、個人や社会環境への対策について理解する。
3学期	1単元　現代社会と健康 精神疾患の予防　　精神疾患からの回復 現代の感染症　　感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 健康に関する意思決定・行動選択　健康に関する環境づくり	・精神疾患の予防と回復、感染症の予防と対策、個人の意思決定や行動選択について理解を深める。
備考（学習のポイント）	1　心身の健康課題や健康に対する考え方の変化に対応するため、新聞・ニュース等に関心を持ち、よく見よう。 2　教科書・ノートは忘れず持参し、板書等はノートに必ず取ろう。 3　提出物は期限を守り、確実に提出しよう。	

評価規準	知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	健康について自他の社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的に応じて他者に伝えている。
	主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力のある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

定　期　考　査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実　施　予　定		○		○	○

評　価　方　法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○授業態度（まじめな態度、積極的な発表） ○課題・レポート提出（日常の課題及び長期休業中の課題）

芸　術

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
美術Ⅰ	２単位	普通科	１年

教 科 書	新・高校生の美術 １（日本文教出版）	副 教 材	

科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
１学期	絵画　基礎、立体感を出すには、陰影 まとめ デザイン　色彩学習、着彩の技法、紙の切り方。	・基本的な絵画技法を習得する。 ・アイデアを出しデザインを工夫する。
２学期	彫刻　紙粘土の扱い方、頭部の制作、骨格の理解、 筋肉の付き方、ヘラの技法。 絵画　着彩の技法、混色の理解。	・様々な表現方法を試す。 ・立体的に表現するおもしろさを味わう。
３学期	工芸　かまぼこ板を加工する、製図、糸鋸の扱い方、 ドリルの使い方、組み立て方法、仕上げの方法。 鑑賞　作品の理解。	・使う、遊ぶためのデザインを考える。 ・道具の正しい扱い方を理解する。
備考（学習のポイント）	１　絵画技法を習得し、立体的に表現できるようにしよう。 ２　自分の考えているイメージを形にしよう。 ３　様々な作品を鑑賞し、よさを発見しよう。	

評価規準	知識・技能	授業の内容を習得し、芸術文化への理解を深めている。鑑賞を通して感性を高め表現することができる。
	思考・判断・表現	作品の主題を理解し、アイデアやイメージを膨らませ、表現の方法を工夫することができる。
	主体的に学習に取り組む態度	美術に関心を持ち、積極的に授業に取り組み、意欲的に表現し鑑賞することができる。

定　期　考　査	１学期中間	１学期末	２学期中間	２学期末	学年末
実　施　予　定					

評　価　方　法	学習への取組をⅠ【知識・技能】、Ⅱ【思考力・判断力・表現力等】、Ⅲ【主体的に学習に取り組む態度】の三観点で評価をする。評価の対象と観点は以下のとおり。 作品、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○授業プリントの提出（授業内容の理解の確認）…　Ⅰ・Ⅱ　の観点 ○授業態度（真面目な態度、積極的な発表など）…　Ⅲ　の観点 ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）…　Ⅱ・Ⅲ　の観点 ○鑑賞プリントの提出　…　Ⅱ・Ⅲ　の観点

芸　術

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
音楽Ⅰ	２単位	普通科	１年

教 科 書	高校生の音楽１（教育芸術社）	副 教 材	

科目の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
１学期	歌唱表現　校歌 　　日本歌曲 器楽表現　リコーダー 鑑　　賞　ミュージカル	・校歌を歌えるようにする。 ・日本語の抑揚に着目してこの道を歌う。 ・リコーダーでふるさとの二重奏を演奏する。 ・ミュージカルの魅力を理解する。
２学期	歌唱表現　ドイツ歌曲 器楽表現　ヴァイオリン 　　テーブルミュージック 鑑　　賞　越天楽	・正しい発音で野ばらを歌えるようにする。 ・ヴァイオリンの基本的な奏法を学ぶ。 ・テーブルを使ったリズムアンサンブルを創作し、演奏する。 ・雅楽の歴史や仕組みについて理解する。
３学期	器楽表現　ギター 創作表現　循環コード 鑑　　賞　アジアのさまざまな音楽	・コード奏ができるようになる。 ・循環コードを基にした旋律を創作する。 ・民族音楽の音楽的な特徴を理解する。
備考（学習のポイント）	１　表現に必要な技能を身に付けるために、根気強く練習に取り組もう。 ２　他者と積極的に意見を共有したりアンサンブルしたりしよう。 ３　日常生活でも、様々な音楽と親しもう。	

評価規準	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的･歴史的背景などとの関わりや音楽の多様性について理解し、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫したり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりすることができる。
	主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を身に付けている。

定　期　考　査	１学期中間	１学期末	２学期中間	２学期末	学年末
実　施　予　定					

評　価　方　法	実技テストや小テスト、ワークシートの記述内容、授業態度などを総合的に評価する。 〇実技テスト 〇小テスト 〇ワークシートの記述内容 〇授業態度（積極性、練習への取り組み等）

外国語（英語）

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
英語コミュニケーションⅠ	４単位	普通科	１年

教 科 書	Revised BIG DIPPER English Communication Ⅰ （数研出版）	副 教 材	Word Navi 英単語・熟語 3000 ラーナーズ高校英語

科目の目標	日常的な話題や社会的な話題について理解し、適切に表現したり、伝え合ったりする力を養う。また、外国語の背景にある文化に対する理解を深める。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
１学期	Lesson 1　Wagashi: A sweet Tradition Lesson 2　Smartphones and Smart Users Lesson 3　Two Kinds of Leardership Lesson 4　Older Sports and Newer Sports	・時制、助動詞、受動態、動名詞、不定詞、完了形を使った英文
２学期	Lesson 5　AI Meets the Arts Lesson 6　Dynamic Pricing: A New Pricing System Lesson 7　The Maldives: A dream Destination? Lesson 8　Kazu Hiro: In Pursuit of a Dream	・比較、５文型、It 構文、分詞、関係代名詞、仮定法を使った英文
３学期	Lesson 9　From Recycle to Upcycle Lesson10　Diversity at Japanese Companies Power Up Section	・関係代名詞、関係副詞、過去完了形を使った英文
備考（学習のポイント）	１　英語が使えるようになるために、基本的な単語、文法をしっかり習得する。 ２　基礎・基本の定着を図るため、必ず予習をして授業に臨み、学習に集中する。	

評価規準	知識・技能	英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題等について、その内容を捉えたり伝えたりする技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題等について、必要な情報等を捉えたり、伝えたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化への理解を深め、聞き手、話し手に配慮しながら、主体的、自律的に英語を使おうとしている。

定　期　考　査	１学期中間	１学期末	２学期中間	２学期末	学年末
実　施　予　定	○	○	○	○	○

評　価　方　法	定期考査、小テスト、パフォーマンステスト、提出物、授業態度等を総合的に評価する。 ○　授業態度（真面目な態度、積極的な発表、ペアワークやグループワークへの取組） ○　提出物（日常の課題及び長期休業中の課題、ノートの整理状況） ○　パフォーマンステスト（読む・書く・聞く・話すなどの活動）

外国語（英語）

科　目　名	単　位　数	学　　科	学　　年
論理・表現Ⅰ	２単位	普通科	１年

教 科 書	Revised EARTHRISE English Logic and Expression Ⅰstandard （数研出版）	副 教 材	Word Navi 3000（啓林館）

科目の目標	基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝えたり、意見や主張を工夫して伝えたり、文章を書いて伝えることができる。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
１学期	Lesson 1　Introduce yourself to your class Lesson 2　How do you spend your weekends? Lesson 3　Where did you go on vacation? Lesson 4　May I ask you a question?	・現在と過去を表す表現 ・未来を表す表現 ・助動詞 ・完了形
２学期	Lesson 5　Would you like to come with me? Lesson 6　Something really Japanese Lesson 7　How are you preparing for your future? Lesson 8　Let's enjoy school life. Lesson 9　Are you eco-friendly? Lesson 10　What sports do you like?	・受動態 ・比較表現① ・比較表現② ・動名詞、to-不定詞① ・to-不定詞② ・分詞
３学期	Lesson 11　Do you use digital devices when you're studying? Lesson 12　Recent advances that have changed the world Lesson 13　It's time to celebrate Lesson 14　Various countries around the world Lesson15　What is important to you in life?	・関係詞① ・関係詞② ・仮定法 ・接続詞
備考（学習のポイント）	１　各レッスンの学習項目を理解・把握して、基本的内容を英語で表現する。 ２　Expressions plus の文法と使い、身の回りのことを英語で表現する。 ３　発表やグループワークを通して、英語学習の楽しさを学ぶ。	

評価規準		
	知識・技能	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えを的確に理解している。
	思考・判断・表現	基本的な英語表現を用いて話したり書いたりして、情報や考えなどを相手に伝えようとしている。
	主体的に学習に取り組む態度	英語を用いたコミュニケーションに関心を持ち、積極的に伝えようとする態度がみられる。

定　期　考　査	１学期中間	１学期末	２学期中間	２学期末	学年末
実　施　予　定	○	○	○	○	○

評　価　方　法	定期考査、ノートや課題の提出、授業態度を総合的に評価する。 ○　ノート提出（予習・復習及び整理状況の確認） ○　授業態度（まじめな態度、挙手による積極的な発表） ○　小テスト、発表の内容と態度

家　　庭

科 目 名	単 位 数	学　科	学　年
家庭基礎	2単位	普通科	1年

教 科 書	家庭基礎　自立・共生・創造（東京書籍）	副 教 材	家庭科ノート・調理実習ノート基礎編 （愛媛県高等学校家庭科教育研究会）

科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを目指す。

	学　習　項　目	学 習 の ね ら い
1学期	第1章　生涯を見通す 第7章　衣生活をつくる （実習）基礎縫い 第6章　食生活をつくる （実習）調理実習 第10章　持続可能な生活を営む ホームプロジェクト（夏休み課題）	・生涯を見通した青年期の生き方について学ぶ。 ・衣生活の自立に必要な知識と技術を身に付けることができる。 ・栄養、調理等について学び、食生活を営む上で必要な知識と技術を身に付ける。 ・資源や環境に配慮した生活行動を学ぶ。 ・自己の家庭生活や地域の生活と関連付けて生活上の課題を設定し、解決方法を考え、計画を立てて実践しようとする。
2学期	ホームプロジェクト（発表会） 第7章　衣生活をつくる 第4章　超高齢社会を共に生きる 第8章　住生活をつくる 第9章　経済生活を営む 第5章　共に生き、共に支える 第3章　子どもと共に育つ （実習）保育作品製作	 ・被服管理の知識と技術を身に付け、健康で快適な衣生活の方法を学ぶ。 ・高齢者の生活の課題から、自立生活の支援の方法を学ぶ。 ・安全で環境に配慮した住生活の方法を学ぶ。 ・生活における経済の計画、消費者問題や消費者の権利と責任について理解し、消費者としての適切な意思決定に基づいて、責任ある行動を学ぶ。 ・福祉や社会的支援につい理解し、共に支え合って生活することの重要性について学ぶ。 ・乳幼児の心身の発達と生活について学ぶ。
3学期	第3章　子どもと共に育つ 第2章　人生をつくる 第11章　これからの生活を創造する	・子どもの発達に必要な周りの人々の果たす役割を学ぶ。 ・生涯を見通した自己の生活について考えることができる。
備考（学習のポイント）	1　将来の生活設計を考え、今の家庭生活に興味を持とう。 2　家族の一員としての役割を果たすために、家族との会話を大切にしよう。 3　基礎的・基本的な知識と技術を定着させるために、積極的に家事を手伝おう。 4　実践力を養うために、検定やホームプロジェクト、家庭クラブ活動に参加しよう。	

評価規準		
	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
	思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
	主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

定　期　考　査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実　施　予　定		○		○	○

評　価　方　法	定期考査、提出物（課題、プリント）、授業態度等を総合的に評価する。
	○　プリント提出（整理状況の確認）　　○　授業態度（まじめな態度、積極的な発表）
	○　小テスト（単元ごとの確認テストなど）　　○　課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題）